

新 年 の ご 挨拶



会 長
上ノ町 仁

新年明けましておめでとうございます。

先生方におかれましては、ご家族をはじめ職員の皆様とともに、清々しい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は、何と云っても新型コロナウイルス感染症に振り回された1年でした。我々は目に見えないウイルスに対し、個人・集団・自治体・国家としてどう行動し、どう立ち向かうべきか？が問われた年かと思えます。昨年秋、厚生労働省は発熱患者が医療機関を受診するにあたっての方針を定め、各医療機関の役割分担が進んだところでは。会員の先生方のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。年内にはワクチンや治療薬が開発され、インフルエンザ並みの扱いになることを期待しますが、油断は禁物。今回の経験を次の新興感染症への備えとしたいものです。

スポーツ界では9月に大坂なおみが2度目の全米オープンを制しました。大変喜ばしいことでしたが、一方ではマスクを用い、黒人に

対する根深い人種差別に立ち向かう強い意志を感じました。また、自然界に目を向けると、特に人吉に甚大な被害をもたらした7月の九州豪雨災害に始まり、その後最大級といわれた台風10号の襲来もあり、いつものことながら自然の猛威に人間の弱さを感じざるを得ませんでした。被災された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、感染症も含め災害に備え医師会をさらに強靱化すべきと痛感しました。

さて、鹿児島市医師会に視点を移しますと、共同利用施設である鹿児島市医師会臨床検査センターは、新臨床検査センターとして令和3年1月から運用を開始しております。現行のドクター支援システムを新たにバージョンアップさせることでIT化を促進し、さらなる3S(精度、スピード、サービス)の向上に努めます。また、新センター内で新型コロナウイルスのPCR検査も可能となり、先生方の診療の一助になればと思うところです。

医師会病院はこのコロナ禍において、昨年先生方のニーズにお応えすべく鹿児島市と連携し、発熱外来やPCRセンターを設置しました。また、厚生労働省は、平時の入院医療体制を想定した地域医療構想について、新興・再興感染症に対応する内容を踏まえつつ、感染拡大時の受け入れ体制確保の考え方 公立・公的医療機関等に対する「具体的対応方針の再検証」などの取り組みへの影響 今後の人口構造の変化を踏まえた議論・取り組みの工程を論点に示しました。医師会病院は地域医療構想調整会議において、再編・統合に関し再検証を求められているため、感染症病棟の確保など、今後も調整会議において国の示す医療機関との機能分化・連携、集約化の観点から、あらゆる可能性を否定せずに議論を深めていく予定です。

私は、鹿児島市医師会を運営するにあたり、「会員の先生方のために、そしてその先にある患者さんや市民の健康のために」を基本理念に掲げ、自由に「議」を言い合い、十分に「議」をつくした後は「和を以て貴しとなす」医師会を目指しております。まさしくウィズコロナの時代、先生方のニーズ、国の示す観点や病院の状況を含めて代議員懇談会等で大いに「議」を交わし、「和」と「不断の努力」と「覚悟」をもって会員の先生方が納得のいく方向へ進めたいと思います。

またウィズコロナの時代を迎え、昨年は市民健康まつりの特別企画として、新型コロナウイルス感染症に関してオンラインシンポジウムを開催しました。今年は感染症の安定化次第ですが、必要に応じZoomなどを用い、これからの時代に即した開催形式で企画したいと思います。

菅政権は不妊治療やオンライン診療など、これからの医療に関する諸施策を提示しています。そこはしっかりと日本医師会に協議していただき、我々は、ウィズコロナの時代において鹿児島県医師会を要に各都市医師会との連携をさらに強化し、皆さんが安心安全に生活できるよう地域医療を支えていきたいと思っておりますので、お互い「患者さん」を中心に今まで以上に力を合わせていきましょう。

今年の夏には、昨年コロナ禍で延期されたオリンピックが開催予定です。感染症対策をしっかりと行い、各競技において日本の活躍を期待するところです。そして「丑年」は先を急がず一歩一歩着実に物事を進めることが大切な年で、黙々と目の前の自分の仕事をこなすことが将来の成功につながるといわれており、未来への大きな飛躍への始まりの年でもあります。新年を迎え気持ちを新たに、鹿児島県医師会、各都市医師会や関係機関としっかり連携し、先生方が安心して医療に取り組むことで市民の健康に寄与できるよう尽力したいと思いますので、本年もどうかよろしくごお願い申し上げます。